

故博士のケール博士についての言葉を引いて、この稿を閉ぢやう。

「Höare Subjective の著者が其父の面影を描くに於いて確かに示してゐる *työjäsenäni* (to truth in love) の力は私には缺けて居る。而して博士は私に取りて何であるか、私の親しく知るを得た總ての生きた人々の中、博士の占めて居る又占むべき地位は何所にあるか、これが總勘定を試みるためには私は未だあまりに私自身に就いてこの知識に乏しいのを感じる」(中井正一記)(追記)

尙遺稿は舊友並びに同僚であつた諸教授の監修の下に、近く岩波書店より發行すべく準備をれつゝある事をお知らせしたい。

景 報

Gestalttheorie 論文集第二輯が出ました

前回の心理学演習用『ゲスタルト學說論集』の続きとして今回左の三論文を集めて印刷しました。

I. Kurt Koffka, Perception: an Introduction
to the Gestalttheorie

右は英語國民に本學說の要旨を理解させるために起稿したもので知覺心理學の領域における新しい業績を總括的に述べてゐる點でよい鳥瞰圖を與へるものであります。

II. Max Wertheimer, Untersuchungen Zur Lehre von
der Gestalt. II

これは前回の続きで模範的に明晰な叙述を以て本學說の骨子を説いた最も重要な文獻の一つであります。従つて種々の論文に引用されてゐます。W氏の思想家としての獨特の風格が、こゝにうかがはれるのであつて、言々匂々みな深く味ふべきものを藏してゐます。

本學說を知らうとする人の精讀を要するものであります。

III. Wolfgang Köhler, Zur Gestalttheorie.

これは同誌上に三號に互つて連載された Rignano の評論『イギリス心理學派の聯想主義に反對するドイッ新心理學派の形態の學說』に對する辯駁で、"Gestalt"、"Sinnvol" のやうな語に對する曲解を釋明したり、在來の哲學上の考へ方に對する "Seitman-Ime" をしたりしてゐる點で一般の讀者に參考になる最近の論文であります。

なほ卷末に數頁に互る解説を附けました。

○御希望の方は左記へ御申越下さい。

○本部金貳圓五拾錢

九州帝國大學法文學部心理学教室

佐久間 鼎

哲 學 茶 話 會

十二月十八日、樂友館に於て數學基礎論に於ける形式主義と直觀主義 下村寅太郎氏

哲學研究 第百五十五號

寄贈圖書

思想と信仰

烏地大等著
明治書院發行

定價參圓五拾錢

哲人耶律楚材

安岡正篤著
金鷄學院刊行

定價貳拾錢

(人物研究叢刊第六)

寄贈雜誌新聞

哲學雜誌

昭和四年一月號

五〇三號

哲學雜誌

昭和三年十二月號

五〇二號

丁西倫理會講演集

同昭和四年一月號

三一五輯

社會學徒

昭和四年一月號

三ノ一號

眞宗研究

昭和四年一月號

一九號

眞宗研究

昭和三年十二月號

一八號

哲學青年

昭和四年二月號

二卷四號

信濃教育

昭和四年一月號

五〇七號

宗教と藝術

昭和三年十月號

九ノ五號

同

昭和三年十二月號

九ノ六號

觀

昭和三年十二月號

五五號

學校教育

昭和四年一月號

一八七號

全

昭和四年一月號

三〇號

生理學研究

昭和四年一月號

六卷一號

願 慧

昭和四年一月號

八五號

帝國大學新聞

昭和四年一月一日、九日、十四日